

平成23年度 事業報告書

法人の名称 特定非営利活動法人コロンブスアカデミー

1 事業活動方針

不登校ないしひきこもりなどを経験したため、またはその状況を継続しているために、一般的な就職などによる社会的自立が困難になると予想される、または現実に困難になっている青少年（以下 青少年）に対して、それらの状況から脱却する機会を提供し、かつ社会的自立を援助する活動として、社会参加上、重要な共同生活及び模擬的な就業体験の場を提供することに関する事業を行い、各人の個性に応じた社会的自立への機会を獲得することに寄与することを目的に活動を展開してきた。これまで培ってきた団体独自のノウハウに加え、さまざまな地域の資源を活かし、一人ひとりに自立への段階的な支援を多面的な視点から行うように努めた。

今年度も引き続き子育て期から学齢期～思春期～青年期までの切れ目のない支援、それぞれの発達特性に応じたサポートを心がけて一つ一つの活動に取り組んできた。日常の活動に加え、季節ごとにイベントを開催し、その中でこれまでスポットライトを浴びて来なかった子どもや若者が主役になれる場を作っていくように心がけていった。イベントを経験するごとに、子どもや若者の個人的な成長のみならず、法人全体もまた活動が広がっていくのを実感することができた。

異世代交流や地域を巻き込む関係づくりを目的として仕掛けをしていき、その先には地域力や家庭の機能が低下している現状からお互いが支え合うような地域づくり、社会づくりをめざし、具体的に実践を重ねていくように心がけていった。常に団体スタッフが用意したプログラムに参加するのではなく、当事者やその家族が「支援される側」から「支援する側」への立場の転換し、元気を取り戻していくような仕掛けを作っていきたいと考えながら活動を行っていった。また、相談に来た家族や本人も、子育て中の母親も、「独りにさせない」こと、また、支援者が「抱え込まない」ことを心がけていった。そのためには、これまでに培った子育て支援や若者支援の分野でのネットワークを活用し、ヨコのつながりをタテにも広げていこうと保育所や小学校・中学校など身近な機関から少しずつ関係を紡いでいくような関わりを始めていった。現場だからこそ見えている課題や問題について発信を行い、理解者やサポーターを増やしていき、活動の幅を広げていくように努める。また、多様なニーズに応えていけるように、専門性を高めるため、スタッフのスキルアップのための研修も実施した。

今年度の最後から横浜市より青少年の地域活動拠点づくり事業を受託し、来年度開所に向けて準備を進めており、今後周辺地域の中高生を対象としながら、異世代交流や体験活動、地域との連携を目的とした安全安心な居場所づくりに努めていく。

子育て支援の現場では、子育てを選べる時代だからこそ追い詰められている親たちや忙しく働く親たちの余裕を生み出すサポートに力を入れていきたいという思いから、現場で見えてきたニーズを掬い上げ、広場での一時預かりや地域の専門職による育児講座の開催、復職した母親の居場所づくりとして試験的に土曜日に広場を開所するなどの取り組みを行った。

青少年支援を通して見えている問題を伝え、共に考える機会として、思春期の性の問題をテーマに講座を行い、子育て広場の利用者や学童クラブの保護者も参加し、目の前のことだけでなく、その先に直面する問題について考える機会を提供することができた。

湘南・横浜若者サポートステーションやよこはま南部ユースプラザと連携し、各現場で就労研修を受け入れ、きめの細かい振り返りやアフターフォローを個別に行い、丁寧に次のステップへとつなぐ流れができてきた。定時制高校の生徒の受け入れに関しては、学習支援、就労支援、メンタルサポート、医療へのつなぎなど、一人ひとりに応じた対応を心がけ、それぞれのプログラムを組んでサポートを行い、段階的な道筋をつけていった。その中では、研修から当法人内のアルバイト雇用へとつながっていったケースもあった。

また、K2グループで被災地に拠点を設け、被災地での支援活動を行っているため、各事業の利用者やスタッフも現地に赴いたり、横浜でできる活動に参加する流れを作っていた。

2 事業内容

1. 特定非営利活動に係る事業

(1) 社会参加基礎訓練等の場を提供するための寮施設兼生活指導施設の運営

①横浜共同生活舎（ハマコロ）での活動

- ・個別プログラムによりそれぞれの生活目標を掲げ、具体的な自立へのサポートを行った。
- ・起床、食事、洗濯、清掃等日常生活の基礎を体得できるような関わりを行う。
- ・共同生活を通じて、社会生活のルール、コミュニケーション等、社会性を身につけられるように努めた。また自己規律、責任感の醸成に留意しながらサポートを行った。
- ・自分のことは自分で決めるという習慣を身につけ、自立心を養うことを心がけていった。
- ・アルバイト等、自活のための努力を支え、働き続けることへのフォローアップを行った。
- ・高校卒業資格の取得や大学への通学のサポート、自動車運転免許など必要な資格・免許の取得をフォローアップを行った。
- ・2週間・1ヶ月の体験合宿の受け入れを実施。
- ・定期的に季節のイベントを実施。

| | |
|---------|---------------|
| 日時 | 通年 |
| 場所 | 横浜市磯子区中浜町 |
| 主な従事者人員 | 4名 |
| 対象者 | 青少年（月平均 約10名） |
| 支出額 | 10,162,220円 |

(2) 青少年とその保護者などに対する相談・支援

①よこはま南部ユースプラザ

- ・相談窓口（電話、インターネット、来所）を開設し、当事者や保護者の第一義的な総合相談を受ける相談室を運営。
- ・ひきこもり状態からの回復期にある青少年の居場所の運営。
- ・社会体験・就労体験のプログラム、就労支援セミナーの実施。
- ・横浜市内5つの区の関係機関、区役所との連携及びネットワークづくりのため、地域の連絡会の開催。
- ・3機関連絡会等への参加や児童相談所など関係機関との連携会議を通じて、ケースを通じて具体的な連携を深めていった。

| | | |
|---------|--|--------------|
| 日時 | 月曜日～木曜日 | 11時～19時 |
| | 金曜日 | 11時～21時 |
| | 土曜日 | セミナー・説明会のみ開所 |
| 場所 | 横浜市磯子区西町12番1号 根岸駅前第二共同ビル2階 206・208号 | |
| 主な従事者人員 | 9名 | |
| 対象者 | 青少年および保護者、関係者 | |
| 支出額 | 23,587,000円 | |

②メンタルフレンド

- ・ひきこもり状態にあり、自分では出て来られない、家族だけでは煮詰まった関係になっている家庭にスタッフが訪問し、個別のケースに具体的に対応していく。
- ・次のステップへとつながるようにチームで見通しを立て、支援プランを作成し、状況によって軌道修正しながら支援を行う。時には家庭への訪問だけでなく、関係機関などと密に連絡を取り合い、必要に応じて現地にも赴き、共に本人や両親を支える体制作りをしていく。また、チーム体制で支援を進めることで訪問するスタッフの心理的

なサポートをする。

| | |
|---------|--------------------|
| 日時 | 通年 |
| 場所 | コロンブスアカデミー事務局 |
| 主な従事者人員 | 4名 |
| 対象者 | ひきこもり状態にある青少年やその家族 |
| 支出額 | なし |

③有料相談

- ・個別に時間をとって、保護者や本人から話を聞き、今後の方針を考え、現状から一歩踏み出し、前に進めるように有料相談を行う。必要に応じて、次のステップへとつなぐ。

| | |
|---------|------------------------|
| 日時 | 通年 |
| 場所 | コロンブスアカデミー事務局 |
| 主な従事者人員 | 2名 |
| 対象者 | 不登校、ひきこもり状態にある青少年とその家族 |
| 支出額 | なし |

(3) 青少年の自立に関する情報提供

①団体の活動の情報発信

- ・ホームページやブログの定期的な更新作業を行い、内容の充実を図る。
- ・年2回、KIAORAを発行し、団体の活動内容を広く知ってもらうための取り組みを行う。KIAORAはホームページでも閲覧できるようにし、また、地域の各活動場所に設置。
- ・神奈川県補助事業として、活動見学会を10月から計6回実施し、地域理解の促進に努めた。

| | |
|---------|---|
| 日時 | 随時 |
| 会報の発行 | 2011年9月・2012年3月 |
| 見学会 | 2011年10月22日、11月25日、12月24日 2012年1月28日、2月25日、3月24日 |
| 場所 | コロンブスアカデミー事務局 |
| 主な従事者人員 | 2名 |
| 対象者 | 正会員、不登校、ひきこもり状態にある青少年とその家族、 地域の関係機関・関係団体など |
| 支出額 | 241,904円（うち110,000円助成） |

②ひきこもり等青少年自立支援事業

- ・神奈川県青少年サポート課の委託事業として実施。
- ・通いでプログラムに参加できる機会を提供することで、共同生活には参加しにくい人でも日中の活動に参加し、外に出るきっかけづくりにもしてもらう。
- ・4回の連続講座を実施。地域の社会福祉施設へ赴くフィールドワークも盛り込んだところ、参加者からは好評だった。

| | |
|---------|--|
| 日時 | 2012年2月16日（木）・23日（木） 3月1日（木）・8日（木）13:00～15:00 |
| 場所 | 神奈川県青少年サポートプラザ |
| 主な従事者人員 | 4名 |
| 対象者 | ひきこもり状態にある青少年・若者 |
| 支出額 | 300,022円 |

(4) 地域で子育てを支える場の提供・運営

①親と子のつどいの広場事業 子育てスポットくすくす

- ・横浜市補助事業として、乳幼児親子が気軽に集える居場所を運営。
- ・乳幼児を抱える親の日常的な悩みを解消し、学べる場やリフレッシュするための場を提供。磯子区の保健師や神奈川 LD 協会の臨床心理士なども招いて育児講座を実施。
- ・参加する親子が参加者としてだけでなく、運営を支える当事者として育ち、ママサポーター、ママボランティアとして参加する人も増えてきたので、次の世代へうまく引き継いでいけるような流れを作ることを意識して活動を行った。
- ・日常の活動の様子や今後の予定をホームページ・ブログから情報発信を行った。
- ・地域の関係機関・関係団体との連携を具体的に深めるよう努めた。今年度は磯子区子育て支援連絡会の活動も活発になってきたので、近隣地域の関係団体との関係ができつつある。地域の保育園との関係は、子育て広場の活動だけでなく、学童クラブの活動にも活かされているので、少しずつヨコの関係がタテにも広がってきた。
- ・10月からは一時預かり事業も始まり、徐々に利用者も増えてきた。
- ・未就園児のためのプレ教室を実施。昨年度のクラスの同窓会も定期的にも実施し、つながりを保つような取り組みを行った。

| | |
|---------|-----------------------------|
| 日時 | 通年 |
| 場所 | 磯子区東町9-9-2F |
| 主な従事者人数 | 4名 |
| 対象者 | 乳幼児親子 |
| 支出額 | 6,927,786円（うち 5,537,000円助成） |

②磯子まつりイベント 秋の親子フェスティバル

- ・磯子まつりの一環として、親子で参加できるイベントを開催。
- ・迷路や手作りコーナーなどのコーナーを設置し、法人の各事業の活動を知ってもらう機会にもなった。

| | |
|---------|---------------------------|
| 日時 | 平成23年10月29日（土）11:00～15:00 |
| 場所 | 磯子区東町9-9 2F |
| 主な従事者人数 | 10名 |
| 対象者 | 地域に住む乳幼児親子 計185名 |
| 支出額 | 100,357円（うち 50,000円助成） |

③パパ講座

- ・乳幼児をもつ父親を対象に、子どもとのスキンシップや心の交流を図ると同時に、子育て中の父親同士でベビーマッサージやリトミックを体験するプログラムを実施。普段、母親が参加しているプログラムを体験し、家族ぐるみで交流を深められる場になった。

| | |
|---------|---|
| 日時 | 2011年11月19日（土）・12月17日（土） 10:00～13:30 |
| 場所 | 磯子区東町9-9-2F |
| 主な従事者人数 | 4名 |
| 対象者 | 乳幼児親子 17組（計53名） |
| 支出額 | 76,496円（うち 65,800円助成） |

(5) 地域の子どもの居場所の提供・運営

①おーぶんはうすHAMA

- ・商店街の空き店舗を借りて、商店街の方をはじめとする地域の大人と通ってくる子ども

- との交流の場、近隣に住む幼児や小・中学生が放課後に自由に立ち寄れる場所として運営。必要としている子どもたちが継続的に安心して通うことのできる場にしていきたいと、中学に上がった子どもたちや個別支援級の子たちの居場所としても機能していた。
- ・ひきこもりなどを経験した青少年が活動に参加し、主体的にイベントの企画などを担当し、小さな達成感を味わう場として、ハードルの低い就労研修の場にもなっていた。
 - ・地域のさまざまな世代の人が入りやすい環境を作るよう努めた。

| | |
|---------|----------------------------------|
| 日時 | 月曜日～金曜日 15:00～18:00 9のつく日は休み。 |
| 場所 | 磯子商店街商業協同組合 浜マーケット（磯子区久木町20-4） |
| 主な従事者人員 | 3名 |
| 対象者 | 地域の小・中学生（登録制）、地域の人たち |
| 支出額 | 488,195円 |

②年間行事（フットサル大会）

- ・神奈川県からの補助事業として、フットサル大会を開催。
- ・体を動きたいがそういう場がない、仲間作りをしたい、外に出るきっかけにしたいという参加者を募り、チーム対抗でフットサルの試合を行った。当日だけでなく、準備やイベント実施後の関わりを大切にして、参加者が次の段階に進めるような働きかけを行うよう努めた。
- ・一般チームや月一の会の参加もあり、団体間の交流や顔の見える関係づくりもできた。

| | |
|---------|---|
| 日時 | 2011年 5月31日（火）・7月30日（土） 10月 1日（土）13:00～16:00 |
| 場所 | 横浜ベイフットサルクラブ（磯子区磯子1-2-10） |
| 主な従事者人数 | 10名 |
| 対象者 | 青少年や若者 |
| 支出額 | 1,010,725円（うち500,000円助成） |

③金沢区青少年地域活動拠点

- ・横浜市からの委託事業として、地域の小～中高生を対象にした地域活動拠点の運営。
- ・3月に受託決定し、今年度は初年度のみ実施。

| | |
|---------|------------------|
| 日時 | 2012年3月14日～3月31日 |
| 場所 | 横浜市金沢区洲崎町2-6 |
| 主な従事者人数 | 3名 |
| 対象者 | 青少年や若者、地域住民 |
| 支出額 | 2,063,425円 |

（6）放課後児童健全育成のための学童保育の運営

①ぼによぼによ学童クラブ

- ・横浜市在住のおおむね小学1～3年生までの児童で、保護者が仕事や病気、家族の介護のため、放課後に家庭での保育に欠ける児童を預かり、児童が放課後を生き生きと安心して楽しく遊び、学ぶ、豊かな育ちの場を提供。
- ・一人ひとりが第二の家として過ごせるような環境づくりに努め、また学校ではできない体験を多く取り入れ、活動を行った。
- ・手作り給食の提供を行うことで、食事の大切さを知り、家庭的な温かい雰囲気を感じられるようにした。
- ・自主事業として、4年生～6年生の児童の預かり、一時保育や緊急対応（日曜日・祝祭日・夜間・宿泊・年長児の預かりなど）を行い、働く親が困った時に具体的にサポート

ートできるような体制作りをしていった。多様なニーズに応えることで、預け先がなく困っている親が働いている間、安心して預けられる場、子ども達が安全に過ごし、安心して育て行ける場を具体的に提供することができた。

- ・現場での対応をロールプレイで学ぶ機会を作り、また他の保育施設での保育体験などスタッフのスキルアップのための研修も実施。
- ・地域に開かれた学童クラブを目指して、毎月1回、地域交流イベントを実施。
- ・今年度は夏休みの遠足・合宿、年度末の修了式など新しい行事も行った。

昨年度も参加した区内の学童クラブ対抗のドッジボール大会に加え、横浜市主催の行事（文化祭・ドッジボール大会）にも積極的に参加した。

| | | |
|---------|------------------------|--------------------|
| 日時 | 月曜日～金曜日 | 9：00～20：00 |
| | 長期休みは7：00から開所 | |
| 場所 | 横浜市磯子区東町9-9 | 2階 |
| 主な従事者人員 | 5名 | |
| 対象者 | 小学1～3年生までの放課後の保育に欠ける児童 | (場合によって4年生以降も受け入れ) |
| 支出額 | 17,904,577円 | |

(7) その他の事業

①学習支援

- ・学びなおしが必要な青少年の学習、通信制高校のレポート指導、大学受験の勉強、高校認定試験の学習など個別に対応。
- ・毎週、ぼによ塾（国語・算数・英会話・ピアノ）を開催。
- ・ぼによ塾では、スタッフが中心となりサポートする中で、青少年の研修も受け入れ、一緒にチームとしてメンバーと活動を行った。その活動の中で、誰かの役に立っているという実感を味わい、次のステップへとつないでいけるような体験や研修の場となっていた。

| | | |
|---------|--------------------------------|-------------|
| 日時 | 月曜日～金曜日 | 10：00～19：00 |
| 場所 | K2ビル4階など | |
| 主な従事者人員 | 4名 | |
| 対象者 | おおよそ小学1～5年生までの児童、中学生・高校生・大学生など | |
| 支出額 | 668,222円 | |